

活動状況報告書（4 月分）

文化芸術コース 酒井 らん

今月のパリは日差しが強く、気温が 25 度を超える日もあり、突然夏が訪れたかのような 1 ヶ月でした。街の公園やセーヌ川沿いでは、日光浴を楽しむ人々やピクニックをする家族で賑わい、朝から晩まで活気にあふれていました。

今月 8 日には、学校で実技試験が行われました。課題は、バロックから古典派までのソナタ、自由曲、エチュードなどでした。当日は演奏直前に審査員の先生から楽章や曲順の指示があるため、どのような順番になってもしっかりと対応できるよう、さまざまなパターンを想定して準備を重ねました。試験会場は初めての場所で、また審査員の先生との距離も近く、とても緊張しましたが、響きをよく聴きながら、1 曲 1 曲楽しんで演奏することができました。

試験前のレッスンでは、先生から「ピアノの中の音をよく聴きなさい」と何度もご指導いただきました。ピアノの蓋をすべて開け、譜面台を倒し、中で響いている音に耳を澄ませることで、音色の変化や音楽の空気をより繊細に感じ取れるようになります。自宅では防音の為、蓋を開けることができませんが、学校での練習の際には響きを何度も聴き、自分のイメージと実際の音が一致しているかを確かめながら練習に取り組みました。

可否は翌日のお昼頃に学校の掲示板で発表される予定でしたが、学校へ向かっている途中で友人から「結果が出ているよ!」と連絡があり、私の合格を知らせてくれました。結果は、最高評価の「très bien」での合格でした。先生もすぐにお電話をくださり、喜んでくださったことがとても嬉しかったです。今回の結果を受けて、6 月にまた次の試験を受けることが決まり、現在は新たな作品に取り組んでいます。次の試験ではピアノ協奏曲、1960 年以降に作曲された現代作品、試験の 3 週間前に発表される新曲など、多くの課題がありますが、限られた時間を大切に、しっかりと準備を進めていきたいと思います。

また、試験後にはブルーノ・リグット先生の門下生によるコンサートが開催されました。当日はたくさんのお客様にお越しいただき、温かい雰囲気の中、クレメンティのソナタとメンデルスゾーンの幻想曲を演奏させていただきました。尊敬する先輩方の素晴らしい演奏も聴くことができ、幅広いレパートリーや体の使い方、美しくホールに響く音色に心から感動し、多くの刺激を受けました。終演後には、お客様から嬉しいお言葉をいただいたり、これまで話す機会がなかった門下の方とも交流することができたりと、とても充実した時間を過ごすことができました。記念に先生と一緒に写真も撮っていただき、忘れられない一日となりました。

